

楽しかったのりまきびくり

1月22日、南郷小学校では3年に1回の長巻き寿司チャレンジが開催されました。(今年も食べまくるぞお)そう思っていると、農業委員会の先生が「今年はお米いっぱい炊いたけんいっぱい食べてよ」と言ってくれたので、ますます僕はテンションが上がりました。

最初に、ご飯をしく作業です。これでのりまきの美しさが90%以上決まります。海苔の上に隙間なくご飯をかけたのだともおいしそうなのりまきができそうだと思います。具材を並べた後に、運命の「巻きの作業」です。失敗してしまうと、1本のきれいなのりまきじゃなくなってしまう。(失敗したらどうしよう)そんなことを考えていると運命の瞬間が始まってしまいました。谷中先生の「せえの」の掛け声でひよいっときれいに巻けました。僕は、とてもほっとしました。いよいよ巻き寿司が食べられます。ニヤニヤが止まりません。「いただきます」気になる味の感想は、「うーん、具材同士が引き立て合っていて美味しい(みんなで巻いたのりまきは、最高に美味しかったです。またチャレンジしたいです。



(南郷小学校 5年 山本 桔平)

みんなできる安心・安全な避難所生活

私たちは、「黒潮町のみんなが安心・安全に避難所生活を送る」ことの実現に向けて、6つのチームに分かれて1年間探求学習を行ってきました。この1年間の学習を自分から行動し、伝えることができる人になりたいと思い、2月7日、人権まつりで大方中学校2年生が「防災と人権」をテーマにプレゼン発表を行いました。

私は「応急処置チーム」で活動しました。災害時にはさまざまな原因によってケガが発生するため、小さなケガなどの対応ができるように実践を通して学んできました。今回の発表で「みんなで助け合い、行動しあえる」ようにさまざまな処置の方法について会場の皆さんに伝えることができたと感じています。今回伝えた知識が、いざという時に役立つ確かな行動につながる人が少しでも増えたら嬉しく思います。



(大方中学校 2年 西嶋 李珠)

高知の企業と学生の交流会に参加して

私は1月31日に高知市内で行われた「高知のものづくり企業と学生の交流会」に参加しました。ロボットカフェの経営者である吉藤オリイ氏の講演を聴いたり、本校のAI・デジタルに関する発表やワークショップに参加したりしましたが、特に印象に残っているのはワークショップです。そこでは、高知で活動している企業がより発展するためにはどうすればよいかを考えました。私は日本最後のもくめん屋である戸田商行さんと共に、もくめんをより多くの手に取ってもらう方法について考えました。難しさもありましたが、地域貢献につながる活動の大切さを実感し、今後積極的に参加したいと思いました。



(大方高校 1年 清水 なのは)